

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・既習事項を宿題やタブレットで反復練習させたことで、計算の定着が図れた。
- ・児童同士でノートをもとに伝え合う活動を取り入れ、考えを深めたり広げたりすることができた。
- ・デジタル教科書を操作しながら提示したことで、児童の考えを深める手助けになった。

(2) 課題

- ・具体物を使ったり、ノートを見合ったりして、考えを深めたり広げたりすることはできたが、それを自分の考えとして活用したりするという点では不十分である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△目標値を上回っているポイント▼目標値を下回っているポイント

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	知識・技能 ▼ 思考・判断 ▼ 主体的な態度△		
第5学年	知識・技能 ≍ 思考・判断 ▼ 主体的な態度▼	(第4学年時) 知識・技能 △ 思考・判断 ▼ 主体的な態度△	
第6学年	知識・技能 ▼ 思考・判断 ▼ 主体的な態度▼	(第5学年時) 知識・技能 ▼ 思考・判断 ▼ 主体的な態度▼	(第4学年時) 知識・技能 △ 思考・判断 △ 主体的な態度△

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・波及的繰り下がりがある4桁－3桁＝3桁の計算ができていない。 ・大きい数の相対的な大きさの理解が十分にできていない。	・文章問題を読み、場面を捉えて、□を用いて式に表すということが、十分にできていない。 ・あまりのある除法の商とあまりを基に、あまりの処理をして、正しい答えを求めることができていない。	・問題を読み、作図をする記述問題の正答率は目標値を上回っているが、一方で説明をするような記述問題の正答率は低くなっている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・5年生は、あまりのある3桁÷2桁＝2桁の除法の計算の理解が不十分であ	・2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかと捉えることができて	・記述式の中でも、説明を書くような問題になると無解答も多く、課題解決が難

る。 ・6年生は、角の大きさや面積・体積を求める問題など、図形の理解が不十分である。 ・比例や単位量当たりの大きさについては、比例関係がどういうことかの理解はできているが、そこから割合を求めるということの理解が不十分である。	いない。 ・表や折れ線グラフ、円グラフなどから情報を読み取ったり、比較をしたりすることの理解が不十分である。	しいと感じていると考えられる。
--	---	------------------------

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・たし算ひき算かけ算の基礎計算力を維持するために、家庭学習や東っ子タイムで反復練習させる。 ・授業時間内に、常時活動として四則計算の練習問題に取り組ませ、定着を図る。	・具体物を実際に操作しながら思考する機会を多く設ける。 ・文章問題を読み解くことが苦手な児童が多いため、文章を読んで、場面を絵や図に表して考える時間を多く設ける。	・九九修行、百ます計算など、得意な子も苦手な子も、自分の成長を実感し、意欲を引き出せるような取組を行う。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・かけ算を中心とした四則計算や単位換算を定期的に練習する時間を設けて反復練習させる。 ・復習の時間を設けて、意味を児童に説明させながら確認する場を設ける。	・文章問題に触れる機会を増やし慣れさせる。その際に文章中の大事な言葉に線を引かせ、題意を的確に捉えられるように指導する。	・少人数学習や補習の時間などの指導を工夫し、個別最適化を図ることで、個人の苦手意識を減らしていく。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・補習、東っ子タイムの時間を活用し、学習したことを反復させることによって理解の深まりと定着を図る。 ・少人数による学習を生かし、既習事項の反復練習をさせる。	・文章問題から必要な情報を整理し、数直線や図に表すことで、正確に立式できるように指導する。 ・グラフや比例関係を読み取る際は、友達と意見を交流したり自分の考えを説明をしたりする場面を設定する。	・児童が簡単と感じられる記述式の問題を解く場を多く設け、どのように記述式問題を解けばよいか理解を深め、苦手意識を減らし自信を付けさせていく。